

「閉会挨拶」

株式会社 MTI 常務取締役 吉田 泰三

長い時間熱心に耳を傾けて頂き、誠に有難うございました。

本日の講演を振り返ってみますと、「船用エンジンシリンダー内部の自動撮影装置の開発」で“新たな手法による故障予知の一提案”を、「対水船速の計測精度向上に関する研究開発」で“船体回りの流場の新たな知見”を、「ビッグデータを活用したコンテナ船の船型最適化検討とその評価」で“経済環境の変化に柔軟に対応する技術”について述べさせて頂きました。その後休憩を挟み、「MTIにおける営業活動(2015)」では“技術の社会還元とパートナーシップの推進”を、「NYK 自動車物流事業への技術貢献」で“データ利用によるサービス向上”を、最後に「ビッグデータへの取り組み—現状と課題—」で、“ますます広がるビッグデータ活用の世界”の話させて頂きました。

どの発表も一朝一夕で成果を上げたものではありません。昨年の MTI の 10 年の歩みでもお話ししたように、MTI も数々の失敗を繰り返しながらも、それが糧ともなり、成果を得てきました。今回も、研究員は数々の試行錯誤を繰り返し、また、ユーザーの様々なコメントを集約して、辛抱強く技術を追求した結晶が本日の発表です。

さて、本日の発表では、ビッグデータがひとつのキーワードとなっています。データという数値の羅列を、グラフにしたり、図表に表したり、また分析・解析したりして、データを、人間が判断しやすい形に変えます。これによって、データの陰に隠れていた現実の一面がより鮮明に見えてきて、業務にも生かされる成果を上げたことを発表しました。これまでも、実航海運航データを元に運航の最適化を目指すビッグデータに関する研究開発の紹介を行ってきました。今回は、新たに、画像データ、エンジン内部の画像を用いて、解析、データベース化してエンジンのより精密な状態監視、故障予知診断に役立つ試みを提案しました。また、自動車物流現場での最適化では、今まで利用されてこなかったデータを用いて分析を行い、陸上輸送トレーラーの最適配車のシステムまで構築しました。船舶の運航データばかりでなく、我々海運を取り巻く事業環境の中には、大量のデータが利用されずに眠っております。我々は今、それを見つけ出し、呼び覚ますことを始めています。今後、益々大量のデータが安価に抽出され、処理でき、ビッグデータが役立つ情報に変換されるならば、これを使わない手はありません。我々は、データの解析技術を中心に、より磨きをかけ、効率運航、安全運航、現場業務の最適化など、幅広いテーマに寄与するべく、研究開発に努めます。

引続き皆様方の温かいご支援を宜しくお願い申し上げます。

本日は、ご来場ありがとうございました。